

第264回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成22年1月25日（月）午後4時30分より
- 2 開催場所 新潟グランドホテル 会議室
- 3 委員総数 9人 出席委員8人

出席委員

豊口 協 委員長	大矢 純一 副委員長
井伊 基之 委員	三島 勇 委員
金巻 とよじ 委員	碓井 真史 委員
大久保 千春 委員	田村 明子 委員

会社側出席者

代表取締役社長	前川 磐
常務取締役（放送統括）	奥野 富士郎
編成局長 兼 放送番組審議会事務局長	駒形 正明
報道制作局長	竹石 尚史
報道制作局次長 兼 報道制作部長	稲田 裕之
編成部長 兼 考査室長 兼 視聴者相談室長	中川 保彦

事務局 紫竹 聡子 水野 明子 隅田 至一

4 議 題

1) 番組合評

『お嫁においでよ～新潟婚カツ物語～』

[放送：09年12月5日（土）10:30～11:00]

(説明：報道制作部長 稲田 裕之)

2) 会社報告

①11月・12月の視聴者の意見。

(報告：視聴者相談室長 中川 保彦)

②講じた措置、公表など定例の報告等。

(報告：事務局)

3) その他

5 審議の概要（委員の意見）

最初に会社側から、この番組はニュースの特集をまとめた番組であること。ニュースでは日々の特集企画を年間にと約250本、記者たちが総力をあげて制作しており、この「婚カツ」は、そのなかのひとつのテーマであったこと。今の時代を鋭く切るとまではいわないが、社会において話題になっていることはニュースで伝えても、さらに番組化に繋がるというひとつのケースとして取り組んだことなどを説明した。

●番組を見始めたとき、昔、バラエティー系で男性と女性を結びつける、真剣さを感じないような番組があったことを思い出した。今回の番組は切実な問題ととらえたらいいのか、見方に

よって意見が分かれてくると思う。最初の村上の男性は資産もあって収入もある。さらに年齢が高く、親との同居の問題もあるので取材対象にしたのであろうが、お見合い相手の女性との年齢差なども合わせて考えると、番組で取り上げる人として適切であったのか疑問を感じるところがある。そして佐渡は、性格がまったく異なる対照的な2人の男性をピックアップしていたが、相対する女性たちの見方、考え方が番組では十分に表現されていなかった。佐渡に来るということ。都会の生活から田舎の生活になること。女性たちはどのように思っているのか知りたかった。過疎化、人口減などの問題を婚カツを通して表現するならば、切実で深刻な問題であることの視点を強く持って欲しいと思う。

●56歳のお見合い暦100回を超す男性の物語は、不調になってもへこたれずに次ぎの出会いを求めてチャレンジし続ける不屈の精神を見習うべき点があって、同年代として胸が打たれるものがあった。ネバーギブアップの精神で愚直に結婚相手を求める一人の男性の真摯な姿が脚色せずに描かれていたと思う。佐渡の物語は、この番組で佐渡がお嫁さん不足で困っていることを初めて知った。佐渡市は危機感をもっていて市の職員も支援するなかで、肝心の島の男性がなかなか集まらない現実が意外だった。船で佐渡に来て婚カツする女性の方が積極的だという現代の男女の婚カツ事情がよく伝わってきた。成立した男性、成立しなかった男性にフォーカスをあてながら対照的な結果となった運命の切なさの感じをうまくとらえていて、成立しなかった男性には「めげずに頑張れ」と応援したくなるようなストーリー展開であった。

●この番組は男女のまじめな婚カツの実態を紹介して、出会いと喜びとか出会えなかった悲哀を対比させながら、うまくいなくてもへこたれずに希望をもって次ぎのチャンスに挑戦するしかない、それが人生だ。と見る人に共感を与えてくれるような品の良い番組にまとまっていた。取材対象となった人たちのその後はどうなったのか知りたい気持ちもあるが、そのような取り上げ方をすると興味本位の野次馬的な別のテイストの番組になってしまう。まじめに婚カツしてもうまくいかなかった人をネタにして外野がそれを見て楽しむような番組にすることは避けるべきで、さらに個人を追いかけるような続編は作るべきではない。

●テレビらしいイキイキとした作品となっていて、楽しく見ることができた。他のメディアでは社会事情・婚カツという深刻な取り上げ方しかできないと思うが、今回の番組はテレビならではの表現で伝えるべきこともしっかり伝えていた。個人的な感想だが、今の人たちは結婚できればいいが、しなくても別にいいよねといった感情をもっている人が多いのではないか。ですから、結婚できない、大変だと言うのは現実から離れていると思っていたので今回の番組のような描き方は良かったと思う。登場してくれる人たちには制約があって、取材も苦労しただろうが、3人ともうまく人をつかんでいて、また3人ともまじめに結婚を考えていて、お見合に失敗しても明るく前向きであるのは見ている側としてホットした。ナレーションの感じも番組の趣旨とマッチしていた。今度は女性からの視点、女性篇も制作すればおもしろいと思う。

●「のんびりバス紀行・傑作集」や、ドキュメント「大河は誰

のもの」の審議の時も思ったが、テレビ局の制作の人たちが自主的に制作する番組は楽しく、制作の過程を楽しんでいるのが伝わってくるような感じがして、テレビの良さはこのような番組にこそあるとの思いを強くした。

●婚カツがブームになった経緯が欲しかった。本屋に婚カツの本が並んでいる紹介などはあったが、社会的な背景を描いて欲しかった。女性たちが団体に佐渡に来たわけだが、このようなことは別に珍しいことではなくテレビでも良く見る。この団体のお見合を企画した中心人物がもっと男女の中に入っているかと仕掛けないとうまくいかないのではないかと。56歳の人を見ていて男は服装などはどうでもいいとの思いを強くした。坂本龍馬などは汚い格好をして、言葉も悪いし、字も下手だし、学もない。しかし、あっけらかんとした中に人を魅了するものがある。だからこの男性も、弱点を生かすような、弱点を光らせて惹きつけるようにしてやった方がよい。

●ニュースの特集を2次利用して番組にし、土曜・日曜などに別の時間帯で放送することは、良い内容の企画であったらどんどんやって欲しい。夕方のニュースを見ることができない人も大勢いるのだから結構なことだ。結婚は社会的にはセーフティーネットなのかなと思うが、心理学的には一人でも幸せに生きていく人が、それでも二人で幸せになろうということだ。一人で幸せに生きていけない人が相手にしがみつくのではうまくいかない。婚カツは特別に不利な条件がない若い人たちの間で流行っているのが今のブームではないか。番組では50歳台の人、そして佐渡の人が紹介された。新潟の結婚事情、お嫁さん募集、を描くのはよいのだが、中高年や農村や離島のお嫁さん募集は、

ずいぶん前から話題になっている問題だ。今は条件に恵まれた普通の若い人が自然に結婚から遠ざかってしまっている。そういうなかで、就カツ、就職活動と同じように婚カツをしなければいけないと思っている人たち、そして実際に活動している人たち、それが今ブームとなっていることではないか。その視点ももって欲しいと思った。佐渡にお嫁さん候補が来るのに島の男性が集まらない。番組ではそれは何故なのか突っ込んで欲しかった。どうして消極的なのか。若い人たちの結婚に対する考え方や現実が男性たちの行動にでてきたのではないかと思ったからだ。

● 婚カツに一生懸命になっている人を紹介するのだから、これ以上突っ込むと多分、嫌らしい感じになる。適度な密着具合で番組は作られていたので楽しく見てしまった。番組にでてくる人たちの視聴者が「頑張ってね」と応援したくなるような番組を作るのが出演者に対しては思いやりになると思った。例えば佐渡の二人の男性のうち、一人は職人として仕事をしているのだから、トライアスロンで走っているのもいいが、仕事に一生懸命励んでいるところを多く紹介すれば、見ている女性は「この人カッコいいかも」と思うかも知れないし、不器用で言い出せなくてオタオタしていても「頑張れ、ダメだったのか、でもあなたは大丈夫よ」と思う。結果がダメでも、視聴者が「この人って、いいところあったのになあー」と思うシーンが多くあると良かった。

● 婚カツは「明るくダメでもやるぜ」みたいなイメージをもっていたが、番組の冒頭で56歳の男性が切羽詰った感じで登場したので、まず大変そうだなと見始めた。独身でイキイキと生

活している女性もたくさんいるので、私は結婚してもしなくてもどちらでも良いと思っている。でも自分の息子となるとそうはいかない。56歳男性の母親に自己投影してしまった。この男性は、財産を子ども残したい。親を安心させたいというのが婚カツの理由だが、それだけではダメだろう。もっと自分の欲を持たないといけないと感じた。お見合だけではなくて、他の活動に参加したりして女性と知り合う機会を作った方がよいと思った。佐渡のお見合ツアーは、よくこのような取材ができたなと思う。二人の男性の片方はうまくいって、片方はうまくいかないことなど、シナリオがあるようにうまく進んでいったのが不思議な感じがした。

●全体的におもしろく、さりげなく作っていて価値観を押し付けるようなことや、嫌らしいところもなく良かった。ただ情報として考えると、目新しいところがなく、驚きもなかった。ニュースで伝えた特集の再編集とのことだが、そのためかニュースのようにサラリと「こんなことがありましたよ」と紹介している感じで深い分析はなかったのが残念だ。結婚相談所の存在、農村や離島ではお見合ツアーが盛んに行なわれていることも多くの人知っている。今は本人たちより先に親同士がまずお見合する活動もあると聞く。「こんなことも今は行なわれているんだよ」といった情報が欲しかった。また視聴者には真剣に結婚について考えている人もいるだろう。そういった人たちへの有用な情報が提供できていれば、なお良かった。

●番組を見て、また社会でこのようなことがブームになっていることに憤慨している。「婚カツ」。誰が作った言葉か知らないが、ブームを作って若い人や結婚できない人から金をとろうと

いう魂胆が見えて嫌だ。佐渡のお見合ツアーも女性たちの考え方が番組ではわからなかったこともあるが、一種の観光ツアーで佐渡に来たように見える。このようなやり方で人の人生を左右すると云うのは好きではない。他人まかせで、紹介されたから結婚する。結婚したけどおもしろくないから別れる。そんな話ではないだろう。この婚カツを見ていると、社会通念というのか、決められた男女間の掟のようなものが今はなくなっているのかと思った。56歳の男性も親を幸せにしたいと云うが、お母さんのために結婚するわけではないだろう。このような無責任な感じが番組全体にあって残念な気がした。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

11月……135件。12月……86件

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会（09年11月30日）から昨日（10年1月24日）まで、総務省に届け出た訂正放送、取消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見（前回審議会）に対してとった措置

- 1.) 前回、第263回審議会では自然に放たれたトキと島民の番組『トキがくれたもの～永島敏行が探る佐渡の想い～』を審議いただきました。委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

2.) 後日、完成する番組審議会議事録を全社員・スタッフに
回覧します。

8 今回の第 264 回放送番組審議会の公表

- 1.) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議
事概要の書面を準備しています。
- 2.) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。
- 3.) インターネットのT e N Yホームページに議事概要を
掲載しました。

9 その他参考事項（委員への配布資料）

- ・ 11 月 12 月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・ 11 月 12 月の単発番組制作一覧
- ・ BPO 報告（No78、79）
- ・ 民間放送新聞（12/3, 12/13, 12/23, 1/3 号）

以上